

東光原
ニュースレター
第6号
February. 2013

熊本大学附属図書館報
TOKOGEN Newsletter ISSN 2185-8683



目次

❁ 東光原文学賞	1	❁ お知らせ	4
❁ 東光原文学賞大賞受賞作品の紹介	2	・医学系分館にグループ学修室ができます	
❁ 新しい図書館の外観予想図	3	・図書館長と学生の懇談会を開催	ほか
❁ 熊大生が利用できる学習スペース	3	❁ あとがき	4

第5回 東光原文学賞受賞作決定



大賞

「かんざくら」

黒江 彩夏 (法学部法学科4年)

優秀賞

「欲望の街」

平井 優希 (文学部歴史学科4年)

さいわい
「幸ノ奥津城」

具志堅政樹 (薬学部薬学科4年)

「鳴沢くんの恋人」

吉川 真悟 (教育学部中学校教員養成課程国語専攻3年)

※受賞された4編は、3月発行の文学賞作品集および図書館ホームページに掲載する予定です。

第5回 東光原文学賞大賞受賞者インタビュー！

大賞受賞者 黒江彩夏さんに受賞後、インタビューを行いました。

—小説を書き始めたきっかけは何でしょうか？

『小学5年生の時に「リレー物語を作ろう」という国語の授業があり、創作って誰にでもできることなんだな、と思ったことがきっかけだったのだと思います。本格的に執筆活動を始めたのは、大学で「目指せ！文学賞」という授業を選択してからです。』

—読者の方へおすすめしたい本を教えてください。

『浅田次郎さんの「沙高樓綺譚」です。』

—おすすめする理由を簡単に教えてください。

『私が書きたいもののお手本だからです。熊大図書館にも収蔵されているようなので、読んでみて下さい。』

—これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へ、アドバイスをお願いします。

『オリジナリティの追求が大事なのももちろんですが、それは私も模索中です。ですから、形式についてひとつだけアドバイスを。原稿の誤字・脱字には細心の注意を払ってください。内容に関しては思う存分自分の世界を広げれば良いと思うのですが、文字にする時だけは、読み手を意識してほしいと思います。せっかく読み手が物語に没頭しているところで誤字等があると、現実に戻されてしまい、流れを断ち切ってしまうことになります。かく言う私も、過去三回、審査員の先生方にご指摘いただきました。』

『創作は誰にでもできることです。皆さんの創作意欲を是非、形にして下さい。』

—ありがとうございました。



第5回東光原文学賞受賞作品より抜粋

かんざくら

猫ノ目 アキラ

「めずらしい。桜が咲く前に、外から人がやってくるなんて」
村長だという彼は、歓迎しているのかいないのか、たいそう判別しにくい顔でそう言った。

自分——夏野武史(なつのおたけし)——は、S県の警察官である。今までは交番勤務だったが、今年からF警察署の生活安全課へ配属され、階級は巡査長に上がった。

生活安全課(略して生安)というのは、地域生活を安心して送れるように、犯罪を未然に防止するための活動を行う部署だ。事件の捜査も行うが、パトロールや相談受付といった業務も多い。

F市は北側に山々が連なり、その麓の盆地に街が広がっている。F署勤務もそろそろ一年が経とうという二月初め、空き巣被害の現場に向かうため、右手に雑木林を見ながら車を走らせていた時のことだった。

「最近、空き巣多いですね」

「しかも居空(いあき)が多いなんてな。不審人物への声かけ、怠るなよ」

助手席に座った巡査部長に喝を入れられる。

対向車もほぼ見かけない山道で、ちらりと山の方へ視線を向けると、森の中に道が続いているのが見えた。

「あれ……」

次々と後方へ流れていく景色を、懸命に目で追う。林木の間に、遠く民家のようなものが見えた。しかし、木々に覆われてすぐに見失ってしまう。

「どうした？」

斜め後ろを気にする自分に、巡査部長が咎めるような声を上げる。

「すみません。……この奥って、人が住んでるんですかね」

「いや、誰も住んでいないだろう。見たこともないし、聞いたこともない」

でも、確かに何らかの建造物があった。民家を見落としているなら周知が必要だろうし、空き家でも犯罪組織の隠れ家等に使われていないか確かめる必要があるのではないだろうか。

そんなことを考えたが、現場到着まであと少しとなり、この件に関して一旦は棚上げすることにした。

次の日、他の同僚にも訊いてみたが、誰も知らないという。それはそれで問題なのではないかとある同僚に言ったら、課長に訊くのが一番なんじゃないのかとからかい気味に返された。



改修後の図書館ってどんな外観なんだろう？



新しい図書館の
外観イメージ図



これが、現在改修中の新しい図書館の外観イメージ図です。
ガラスと金属のパネルでデザインされた外観に生まれ変わります。
図書館の周りの木々の豊かな緑が映り込むことで周りとの調和を図ります。



新しい図書館の2階は今までどおり閑静な学修に適した空間を維持します。
一方、1階部分はコミュニケーション（会話）を可能としたみんなが集う空間を作ります。
「静」と「動」が両立できる建物を目指しています。



楽しみだな！

熊大生が利用できる学習スペース

中央館改修中は閲覧スペースがなくご不便をかけています。以下の施設をご利用ください。

1) 自習室

全学教育棟C棟1階(C103・C105) 平日のみ 8:00～18:30

2) パソコンルーム

① 全学教育棟A棟4階(A406・B301) 平日のみ 8:00～21:30

※授業で利用できない場合もあります。詳細は各室入口の掲示でご確認下さい。

② 総合情報基盤センター3階 PC実習室 土日祝日のみ 13:00～20:00

◎ 医学系分館もご利用ください。

平日9:00～21:00 土日祝日 12:00～18:00



医学系分館にグループ学修室ができます

4月から医学系分館にグループ学修室が出来ます。

少人数(4～20名程度)で、プロジェクターや実物投影機、ホワイトボードなどを使い図書館資料や無線LANを経由したネット情報などを共有して学修できるスペースです。

このほか、この部屋を使って、図書館が提供する「医中誌Web」「最新看護Web」「メディカルオンライン」などのサービスの講習会などを随時開催する予定です。

詳しくは、医学系分館窓口にお尋ねください。

Library Lovers' キャンペーン 2012 (10.22-11.19)

2010年から始まり、今年で第3回目を迎えるLibrary Lovers'キャンペーン2012をご存知でしたか？ 毎年秋に、九州地区の国公立大学・短期大学図書館が行う合同イベントです。

今年のキャンペーンは合同企画二本立て♪

- ①「本で、旅する。-九州文学地図-」
- ②「九州地区大学図書館貸出ランキング」

中央館は改修工事のため限られたスペースで実施し、大勢の方に参加してもらうことは難しかったのですが、九州文学地図・熊本大学版が完成しました。



図書館長と学生の懇談会を開催

平成25年1月18日に「改修後の図書館に期待するもの」をテーマに、図書館長と学生の懇談会を開催しました。当日は学部生7名と大学院生4名(留学生含む)の計11名の参加がありました。

懇談会では、現在の図書館への感想・提案をはじめ、改修後のサービスや設備についての質問・提案など、いろいろな意見が出されました。

学生選書員募集予告

図書館の本を自分で選ぶことができる「学生選書員」を4月から募集します。

活動は、5月～6月の期間内に欲しい図書のリストを図書館に提出するだけです。募集ポスターの掲示がありましたら、奮ってご応募ください。

コラム

「学修」って見慣れない文字が出てきましたね。「学習」の誤植ではありません。「学を習(なら)うのか、学を自ら修(おさ)める」かの違いです。辞書やネットで言葉の意味を調べてみましょう。

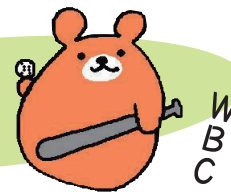
高校までは「学習」でしたが、大学からは自ら「学修」して己のスキルアップを図ってください。(安)

【誌名の由来】

現在の中央館の敷地一帯は、旧制第五高等学校時代、「東光原(とうこうげん)」と称する運動場であったことに由来する。

球春到来

選抜野球
早起き野球



東光原ニューズレター：熊本大学附属図書館報

第6号 平成25年2月刊

発行 熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

Tel. 096(342)2226 Fax. 096(342)2210

編集 図書館報編集プロジェクトチーム

URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen>